

(7) クリ

主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
胴枯病 (<i>Cryphonectria</i>)	①無病の苗木を選んで植える。 ②幹をわらで巻いて凍害を防ぐ。 ③日焼け防止のために太い枝や幹に石灰乳などを塗布する。 ④病枝を切り取って処分する。	①病患部を削り取り、農薬を塗布する。 (例) チオファネートメチルペースト剤 (トップジンMペースト)
【参考事項】 伝染源は枝幹に形成される柄胞子及び子のう胞子である。病原菌は、剪定切り口、枯枝、凍害などで枯れた芽、日焼け部分及び害虫食害痕から侵入する。乾燥したほ場で発生しやすい。		
実炭疽病 (<i>Colletotrichum</i>)	①整枝、間伐を励行し、通風、採光を良好にして枯枝をなくす。 ②適正な施肥、土壌管理により樹勢の低下を防ぐ。 ③クリタマバチの発生を極力抑え、枯死した虫えいを除去する。 ④発生の少ない品種を選ぶ。	①7～8月に農薬を散布する。 (例) ベノミル水和剤 (ベンレート水和剤) イミノクタジナルベシル酸塩水和剤 (バルコートフロアブル)
【参考事項】 枝梢の病患部並びに外観健全な枝、芽に病原菌が潜在して越冬する。翌春これらの衰弱・枯死した組織上に分生子が形成されて、伝染する。		
クリシギゾウムシ	①被害果実を園内に放置せず、集めて適切に処分する。 ②冬期にロータリーによる中耕を行う。	①産卵最盛期前の9月下旬に農薬を散布する。 (例) アセタミプリド水溶剤 (モスピラン顆粒水溶剤) シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤)
【参考事項】 幼虫で越冬 (土中) する。翌年に羽化する個体もあれば、2年以上土中で休眠してから羽化する固体もある。成虫発生最盛期は9月中下旬である。		
カミキリムシ類	①成虫を捕殺する。 ②被害部を見つけ針金などで刺殺する。	①4～7月に、産卵部位である主幹・主枝の基部に、木屑を取り除いて農薬を散布又は塗布する。 (例) MEP乳剤 (サッチューコートSセット)
【参考事項】 各ステージで越冬する。1世代は3～4年。		
キクイムシ類	①寒害や日焼けを起こさぬようにし、樹勢を旺盛にする。	①4～5月に枝幹に農薬を散布又は塗布する。 (例) MEP乳剤 (サッチューコートSセット)
【参考事項】 樹幹の坑道内に成虫で越冬する。年2回発生する。衰弱した木に食入しやすい。		
モモノゴマダ ラノメイガ	①バンド誘殺をする。 ②被害毬果を確実に処分する。 ③粗植にし高い枝を切り戻す。	①7月下旬～9月上旬に農薬を散布する。 (例) カルタップ水溶剤 (パダンSG水溶剤) スピネトラム水和剤 (ディアナWDG) フルベンジアミド水和剤 (フェニックスフロアブル) PAP乳剤 (エルサン乳剤)
【参考事項】 老齢幼虫で粗皮下などの隙間に繭を作って越冬する。年3回発生する。		
クリミガ	①被害毬果を回収し、確実に処分する。 ②冬期に表土を耕起する。	①羽化時期の8月末～9月中旬に農薬を散布する。 (例) アセタミプリド水溶剤 (モスピラン顆粒水溶剤)
【参考事項】 落葉下又は土中の浅いところの繭内に幼虫で越冬する。年1回発生する。発生は8月下旬～9月中旬である。		
コウモリガ	①雑草を刈って園内を清潔にする。	①枝幹に農薬を散布又は塗布する。 (例) MEP乳剤 (サッチューコートSセット)
【参考事項】 1年目は卵、2年目は幼虫で越冬する。通常、1世代に2年を要する。草木から樹木に転食する。		
クリタマバチ	①寄生が少ない種晩生種 (銀寄、石鎧) を植える。 ②弱小枝に寄生が多くなるので、虫こぶのある寄生枝をせん除し、樹勢の回復に努める。	①羽化脱出期の6月中旬～7月中旬に農薬を散布する。 (例) シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤) フルバリネート水和剤 (マブリック水和剤20)
【参考事項】 芽の組織内に若齢幼虫で越冬する。年1回発生する。		